



恋

戦士

の

7

おやぬ

nuejo

秘

する

の

恋する秘文の戦士たち



恋する秘文の 戦士たち

登場人物&用語



ヒャナ

8年前、帝国に滅ぼされた鍛冶の王国「ツオル」の生き残り。
炎の秘文を持っている。
現在は目が見えない。



ホトヴァ

かつてヒャナの父を討ちツオルを滅ぼした帝国の秘文の戦士。
勝利の秘文を持っている。
現在はヒャナの護衛。

秘力…………… 世界に流れる隠された力

秘文…………… 秘力によって強い力が発生した際に残る痕。しるし。

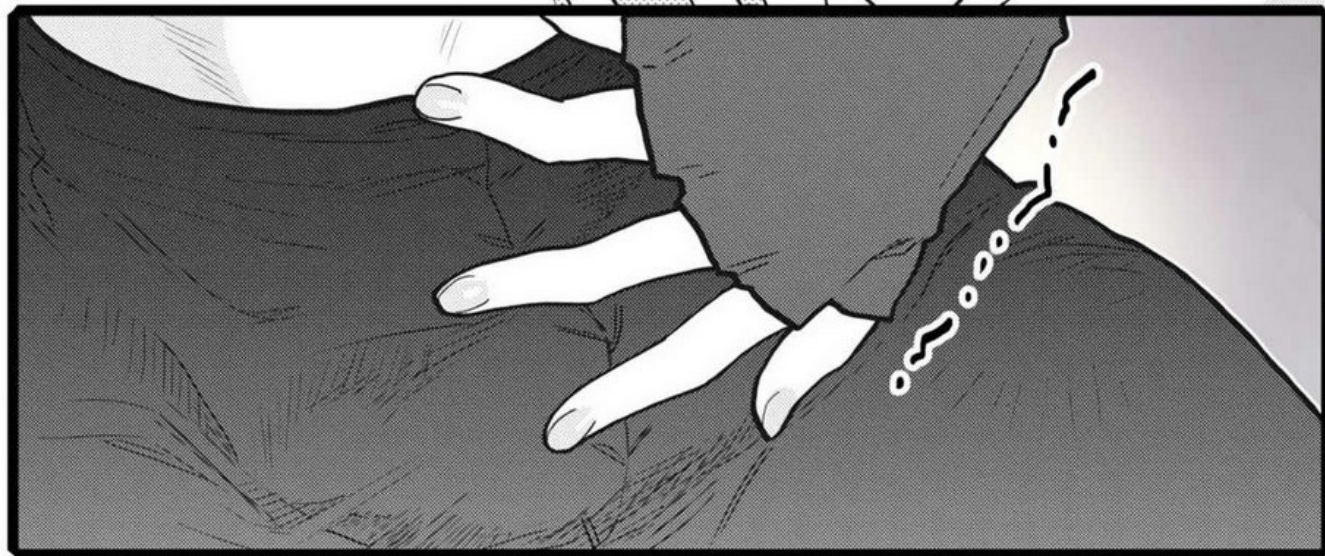
秘文の戦士… 体に秘文をやどす者は秘力を操ることができる。帝国はそれを利用して特別な戦士を生み出した。

本作品の一部あるいは全部を無断で複製・転載・上映・配信することは、著作権上の例外を除いて禁じられております。

Unauthorized copying and replication of the contents of this work, text and images are strictly prohibited.

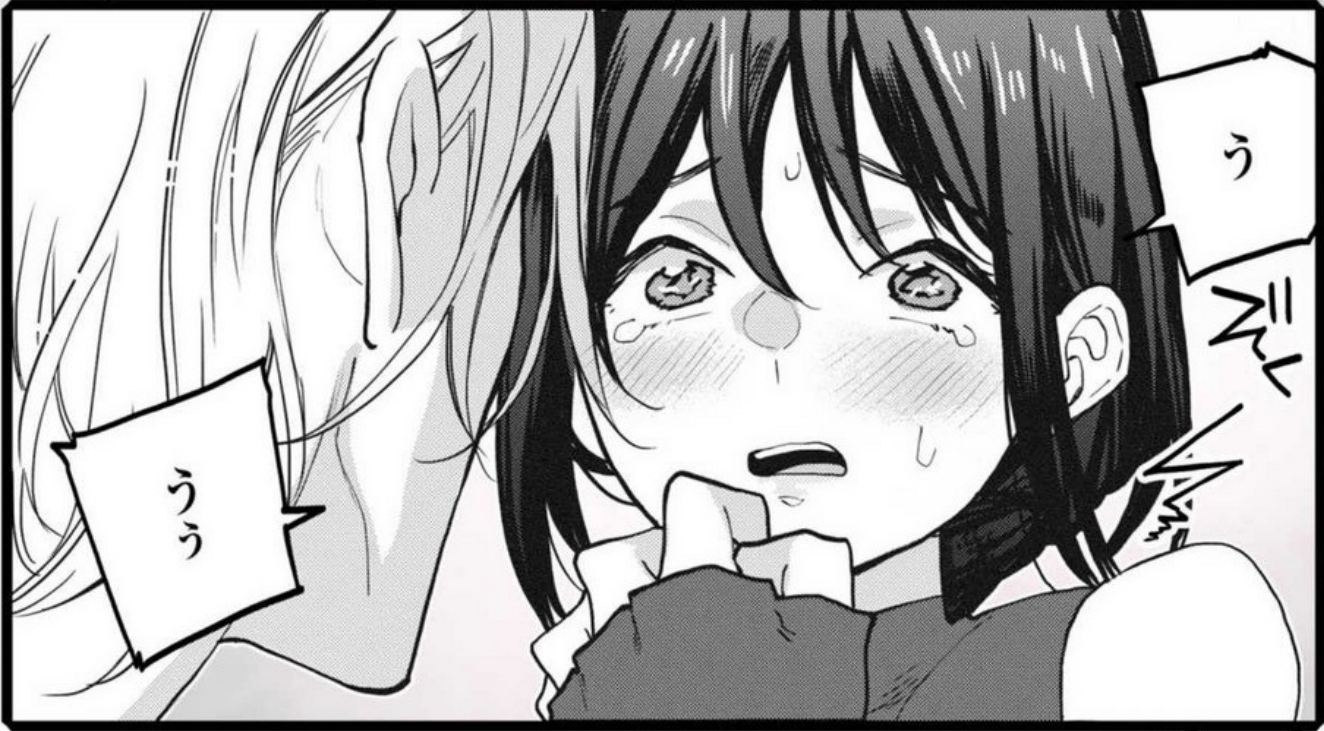
这个作品有图文请勿转载。
未经许可不得转载使用被禁止的

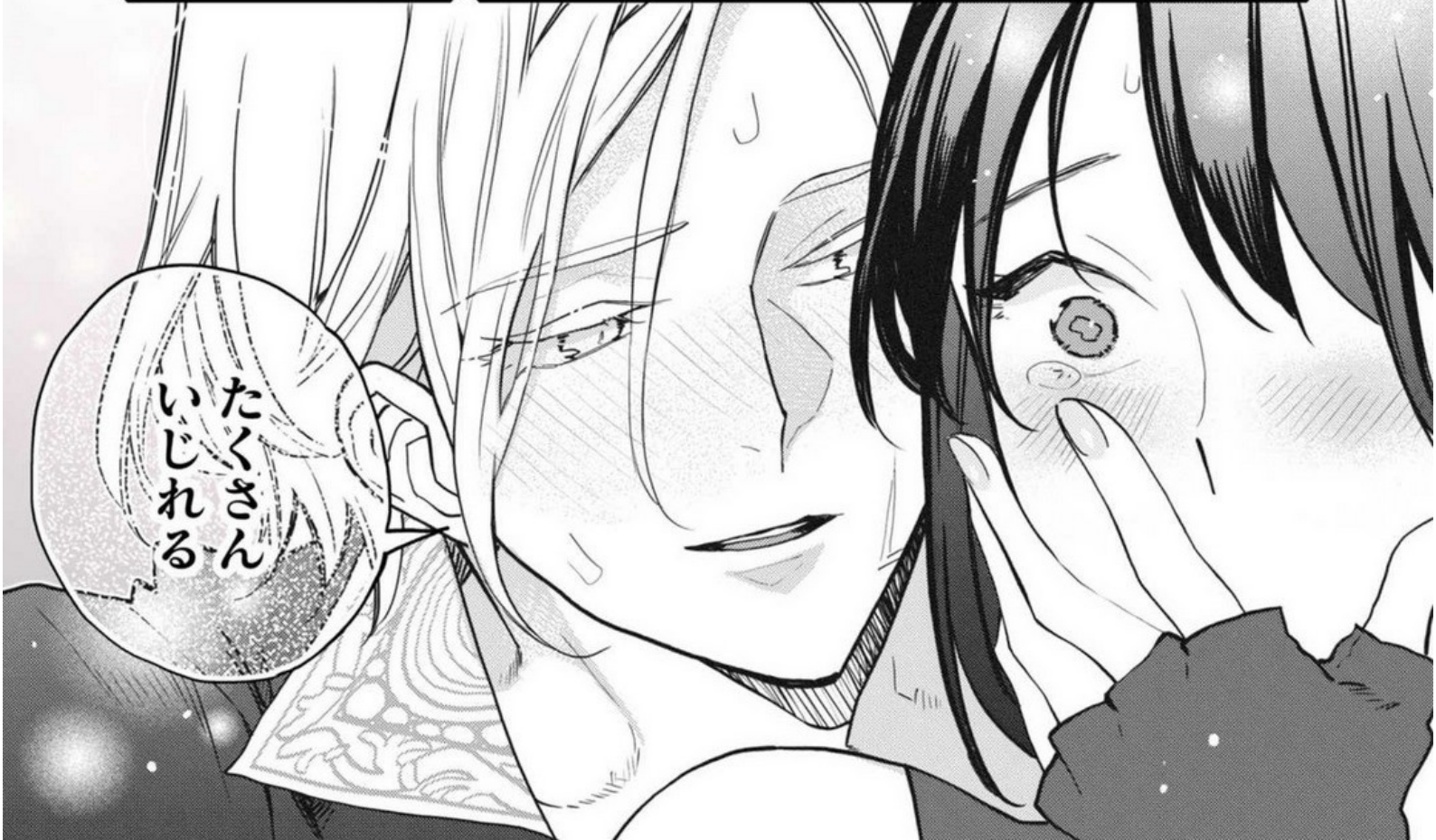
な？
指より
長いだろ



届きそう
だろ？

指じゃあここが
限界だから

















ホトヴァアの
気持ち
が
知りたいのは…



私が

ホトヴァアを
好きだから

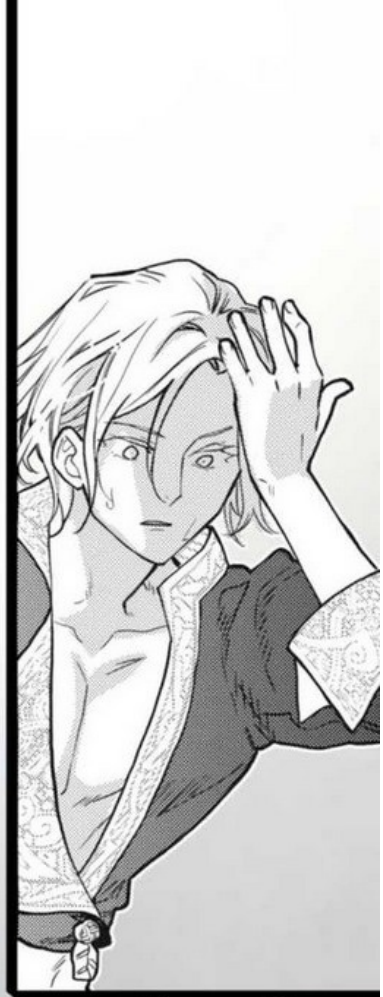




そっかあ



はっ

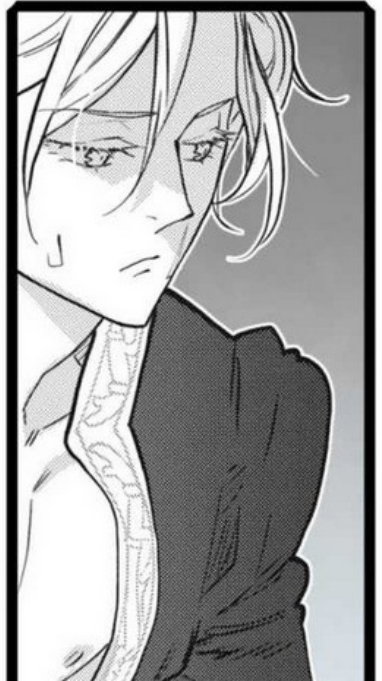


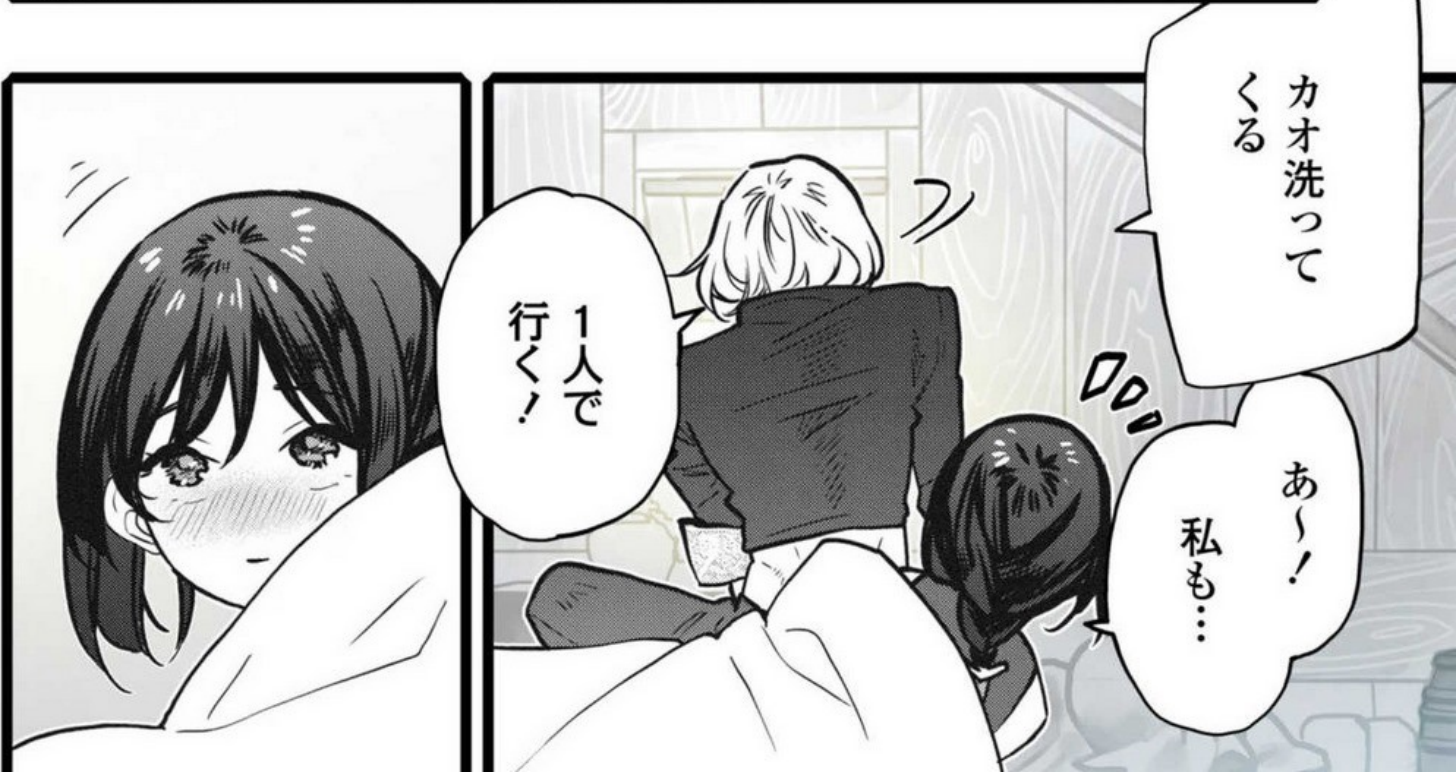


おまえに…



何^{なに}かって
なあに？









鍛冶^{かじ}の材料
だもん!

あの街に
あるの全然
だめでさー!



子供かよ



石拾うの



アレは…
…そういう



あー…



このへん
山と海が近い
から滝^{たき}ばっか
だぞ

滝でも
いいのか?

滝は困る…



?

いや…



あっち

?



やっぱり
河ないん
だ…

だからあんなに
鉱石の質
悪いんだ…



あっち『まが禍り山』
でしょ？

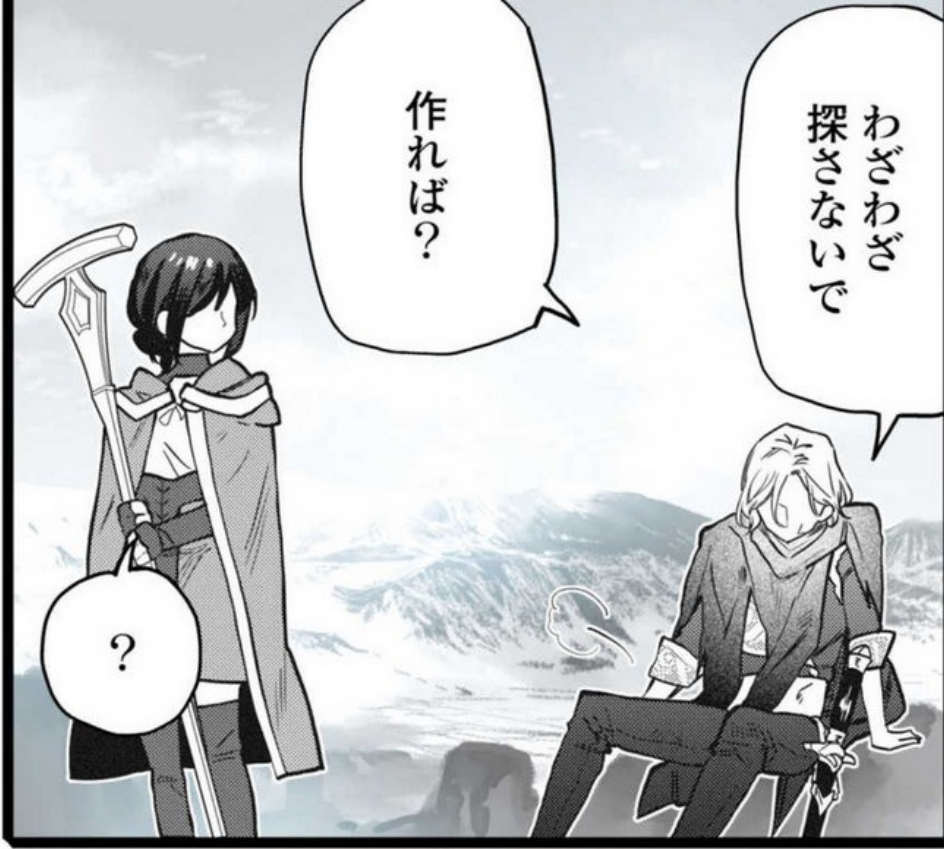
禍り山は
火山なんだよ



サイッコーの
鉱石なんだよ

火山から流れて
くる石はすごい
んだよ

エルデューン
炎の力が
たくさん含まれ
てるの



作れば？

わざわざ
探さないで



エルデューン
炎の力
あやつれば？
って言うてるの

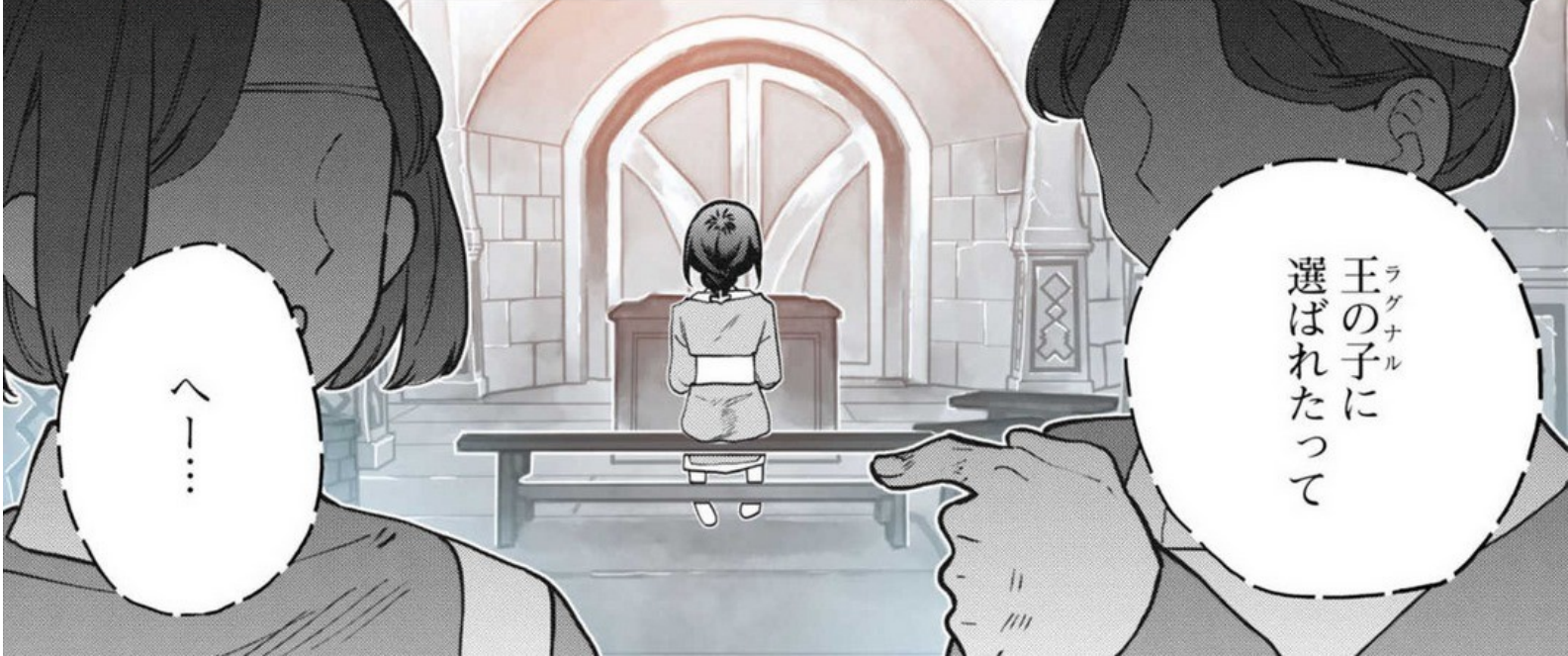
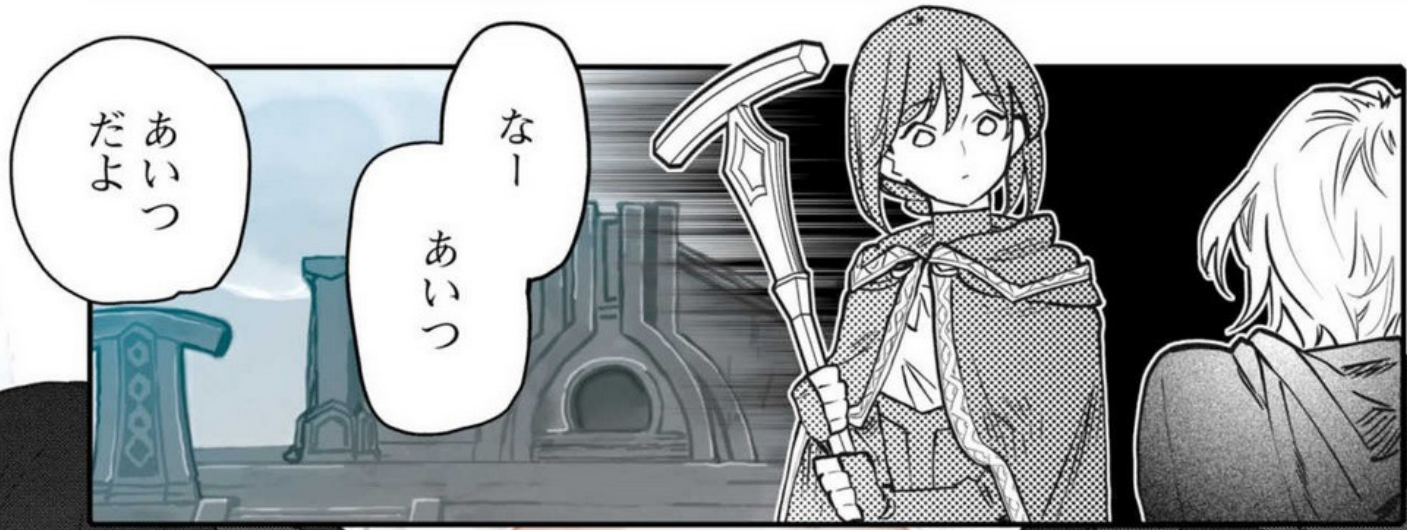


だめな石に

それこそ
そのへんの

エルデューン
炎の力を
注ぎ込めば
いいんだよ

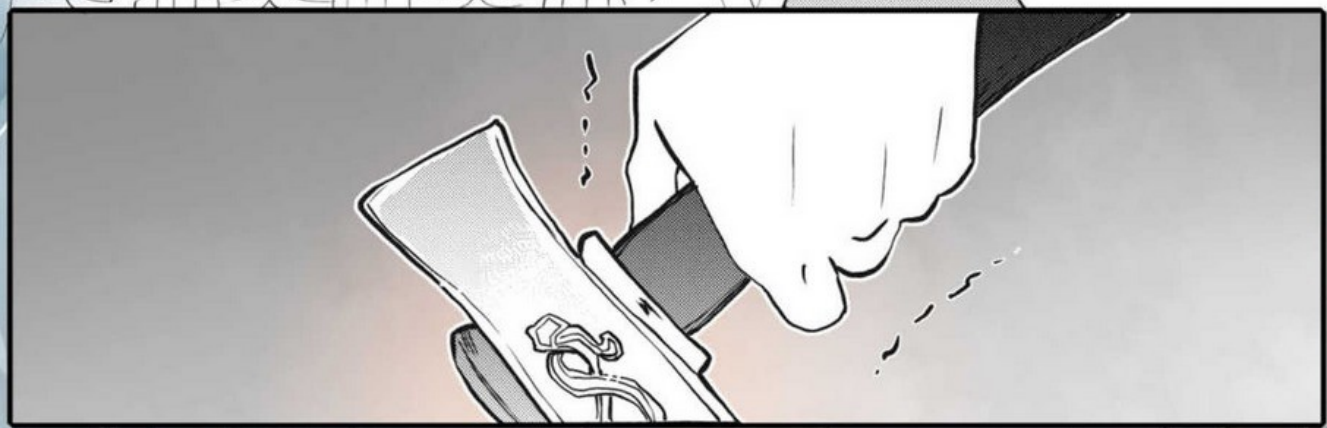




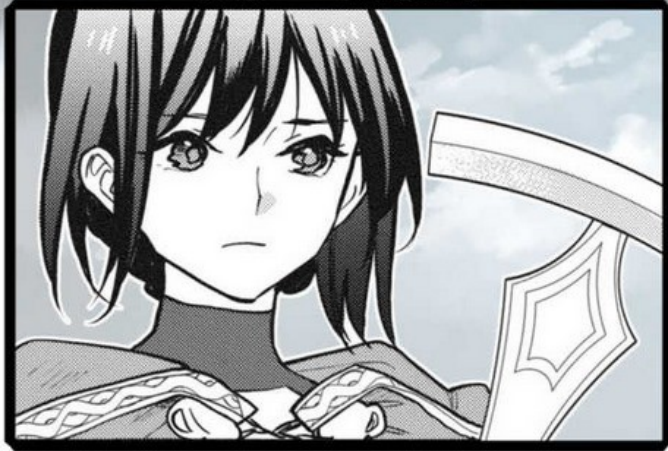
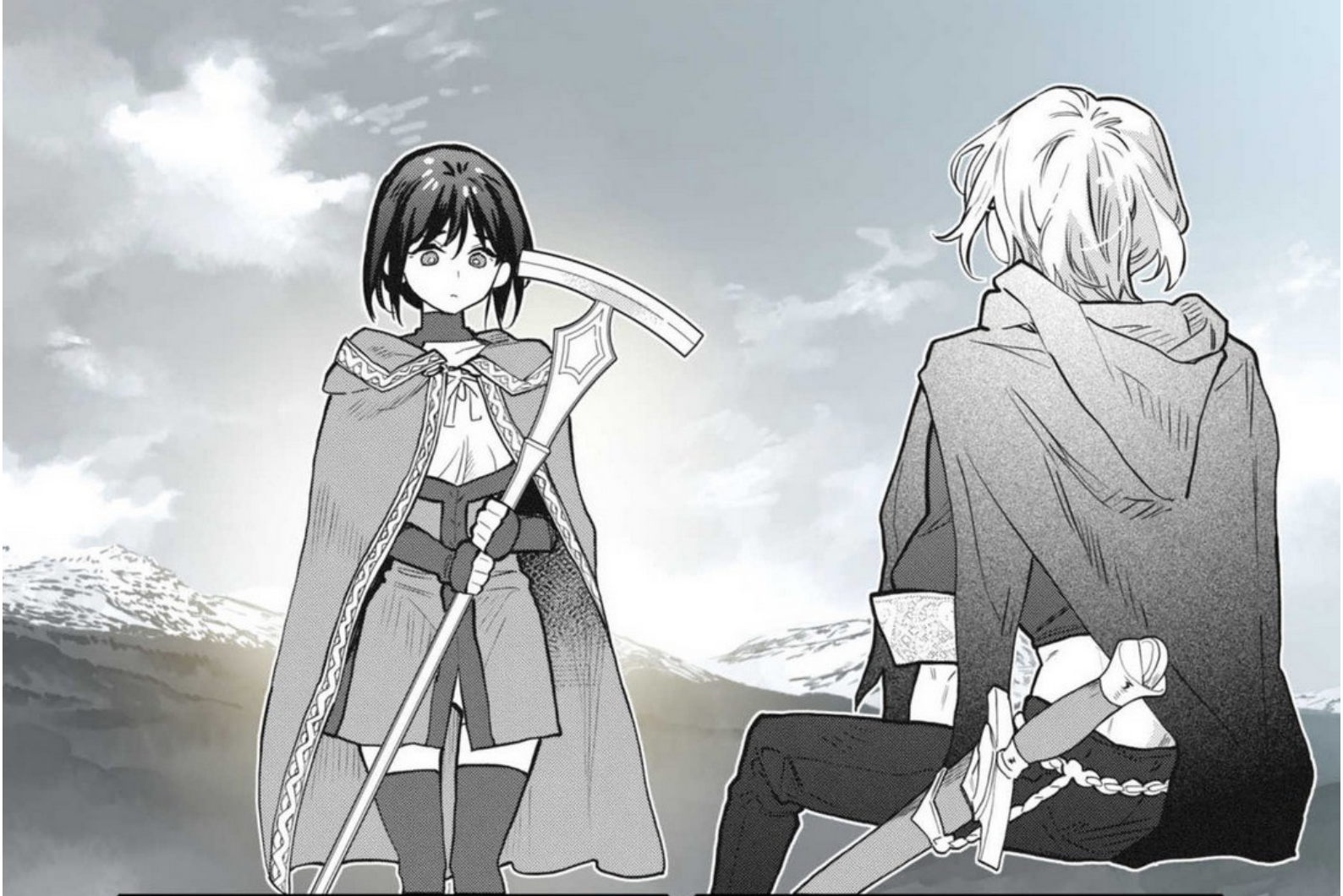




そ・れ・で・か



ちがう
もん…



あや…

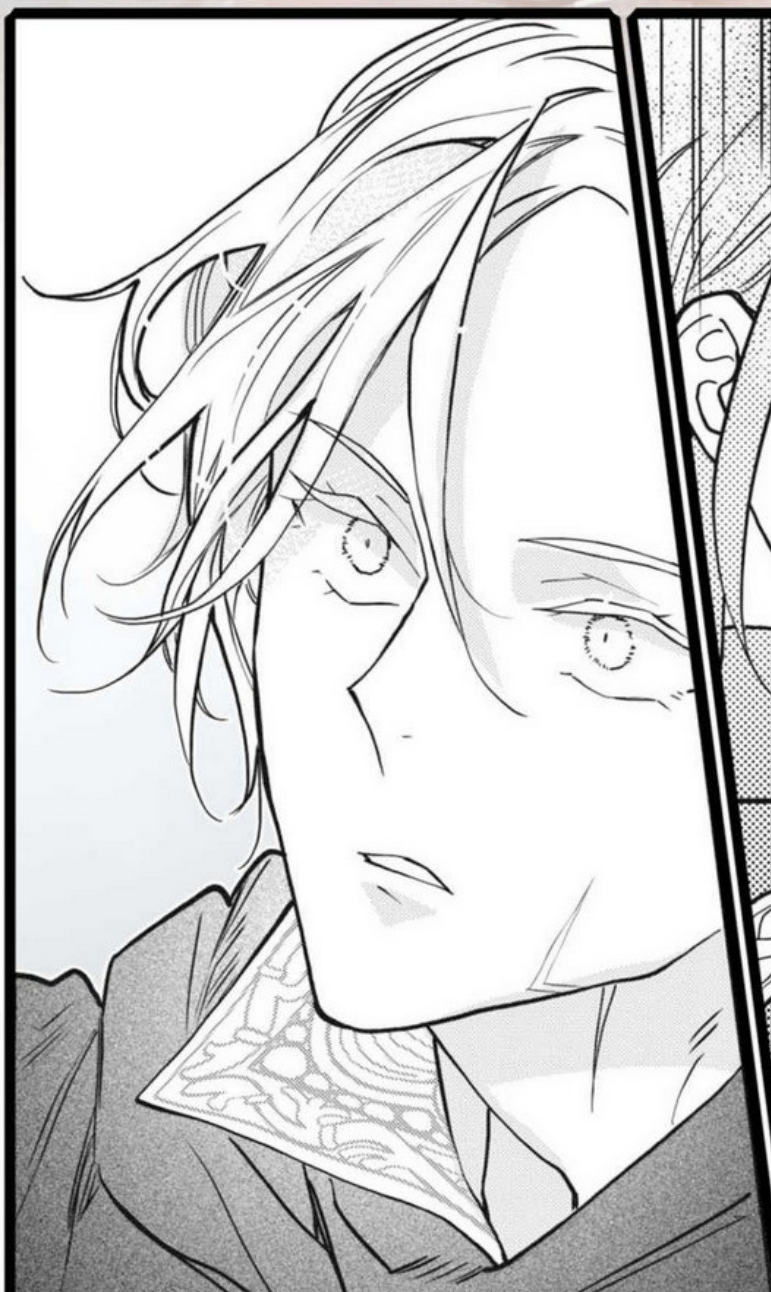
秘文^{ルン}





私が炎の力を
エルデューン
使えるから

会いにきて
くれたんだよ



努力して
るもん!!



わかった

...



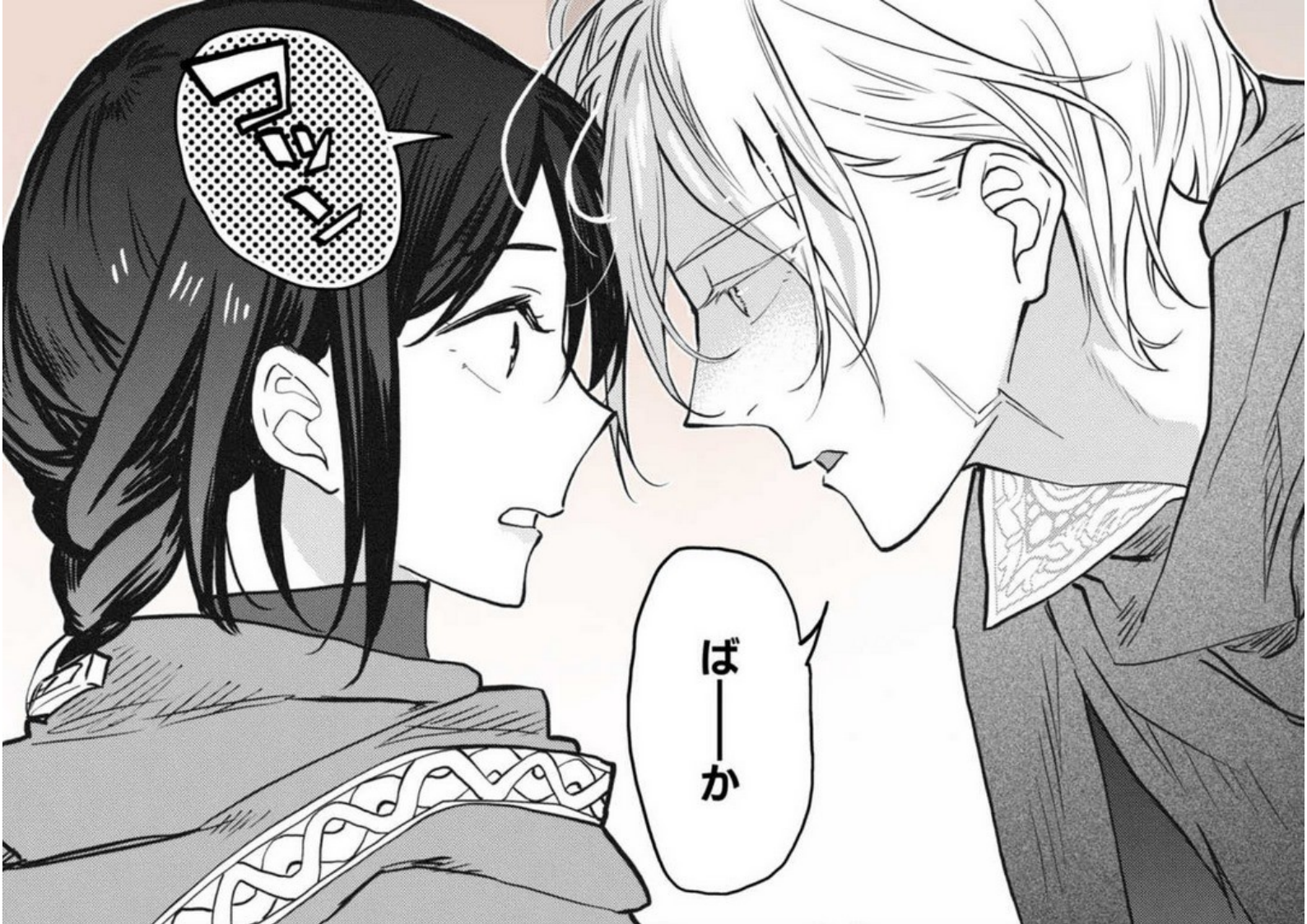
使わなくて
いい



...わたし...
もう守って
もらえない?



アッ
ア



ばーか



え...

いつまで
おまえを守る
って言った？



はじめに
なんつった？





おぼえ
てんじやん



...

目が治る
まで...



仕^{しかた}方ねえな
河さがすぞ

えっ

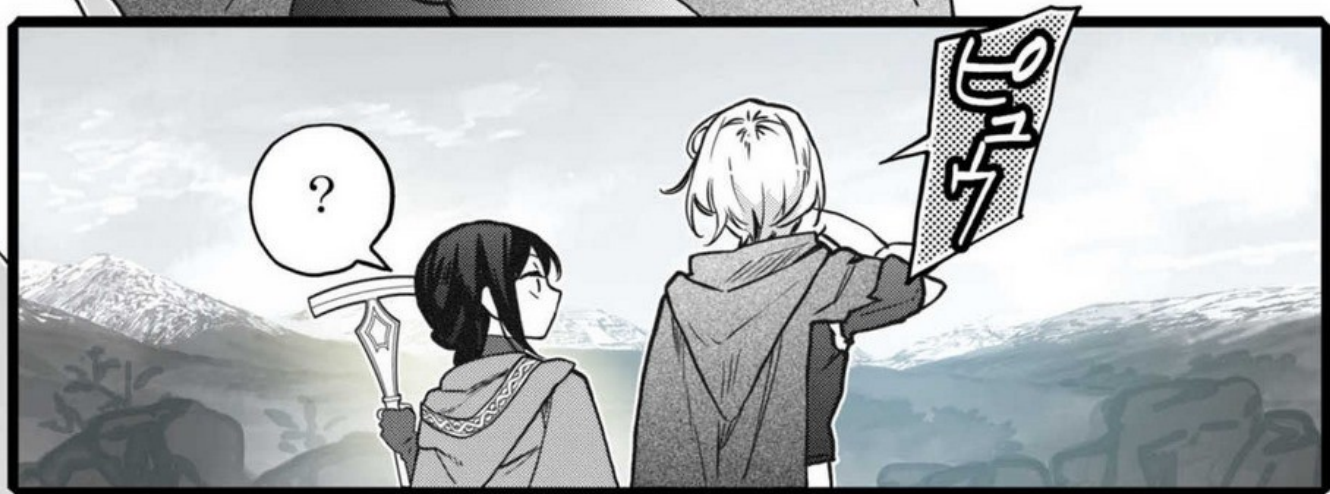
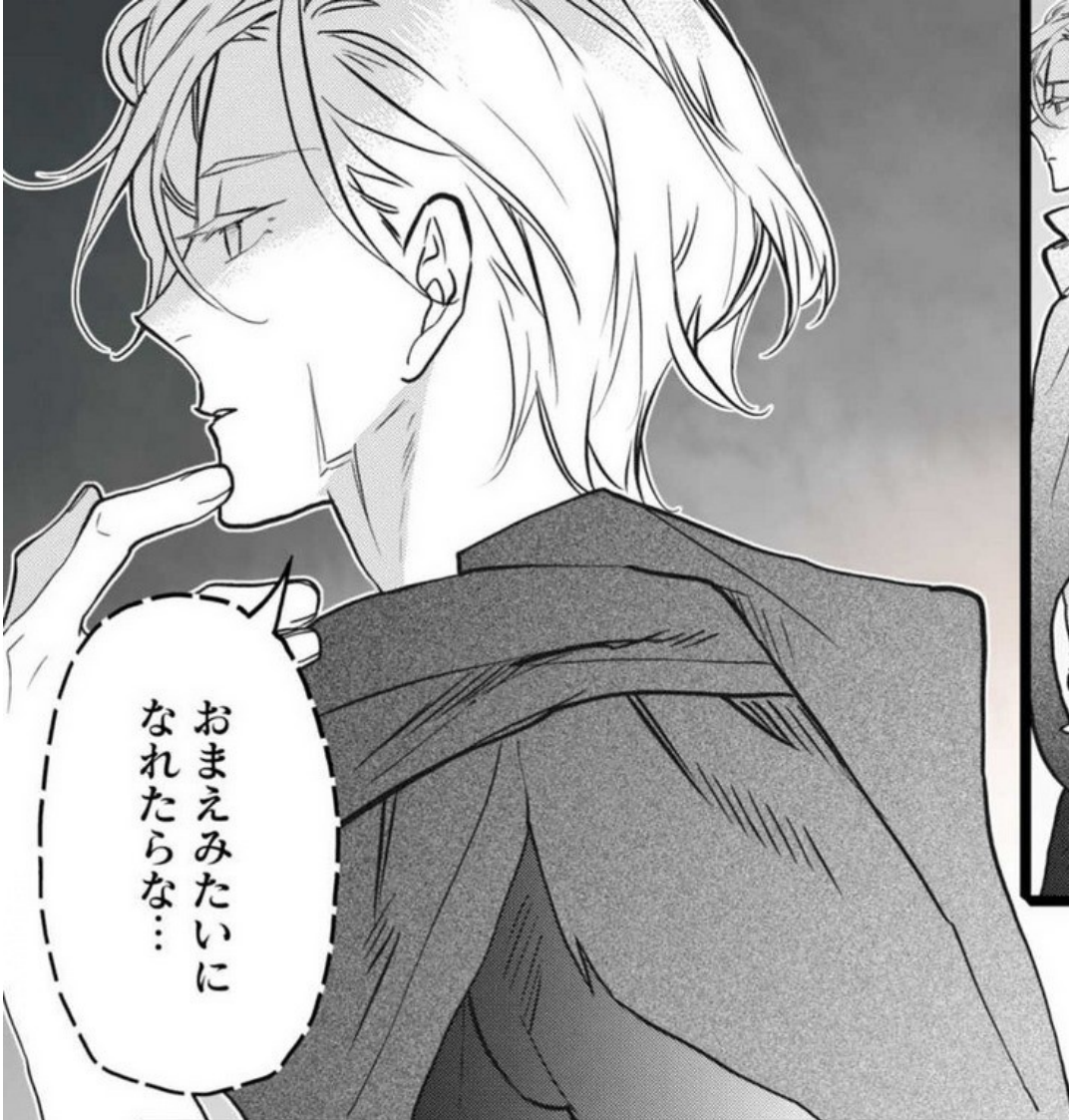
イシ要^いる
んだろ

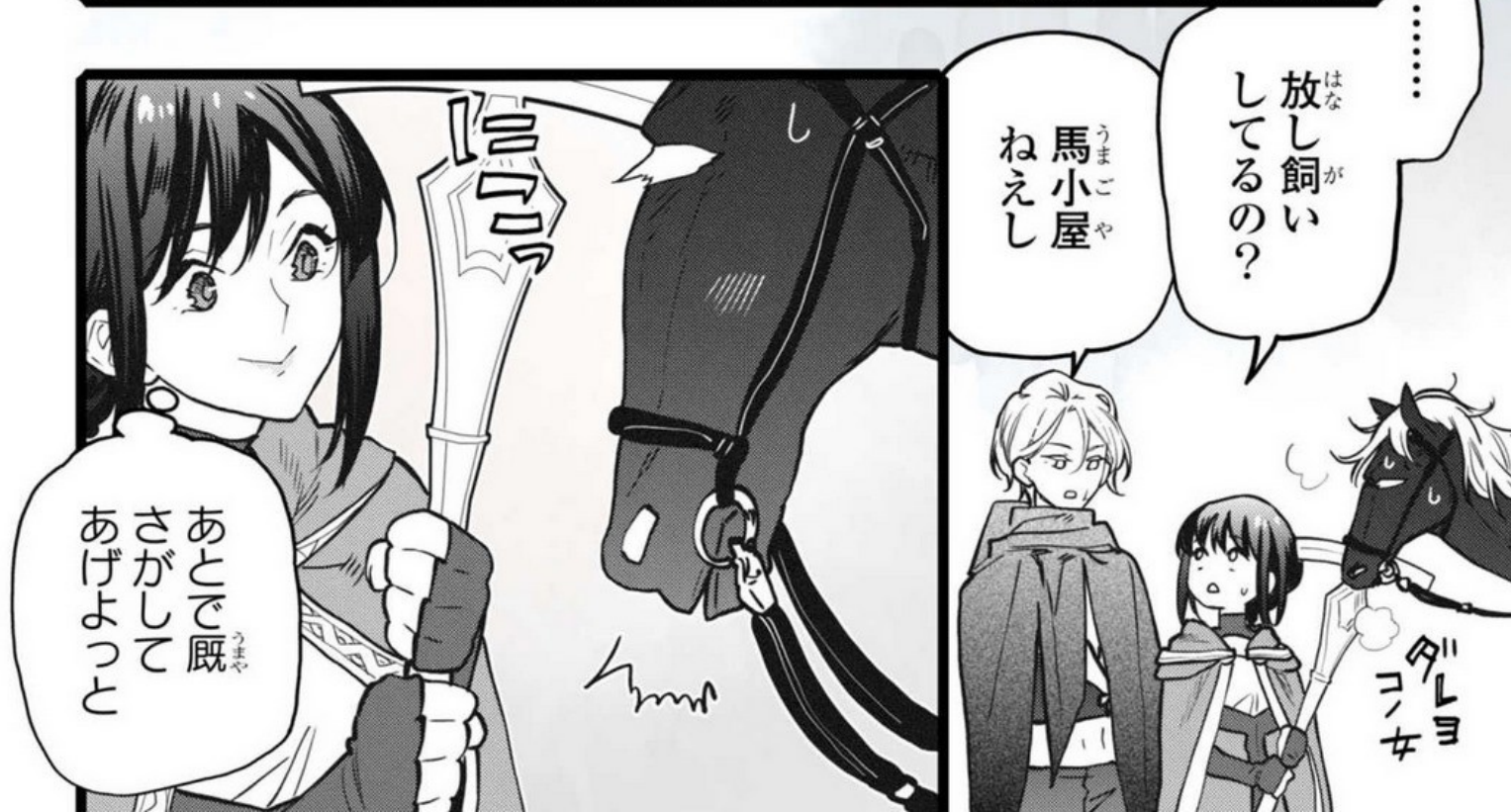
うん
うん

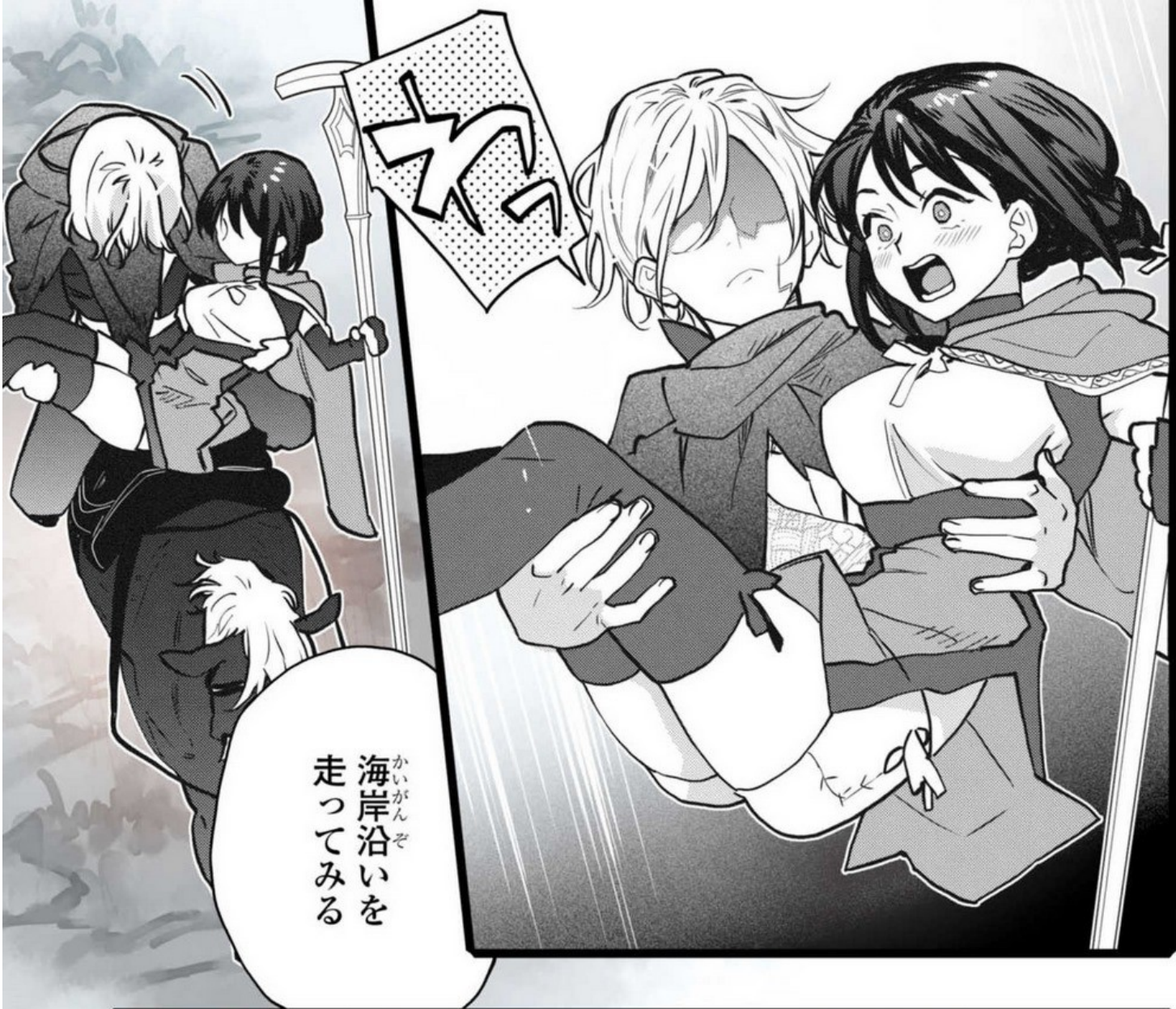




ちゅ!!







かいがんで
海岸沿いを
走ってみる



内海

外海

それなら
内海側が
いいな

内海は
暖かい
でしょ

エルデューン
炎の力も
残留しやす
くてー！



いま内海は
帝国船が
ウヨウヨしてる





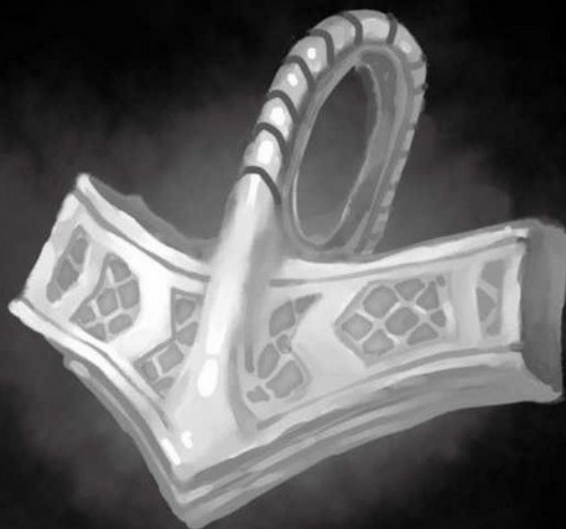
To be continued.

ラグナル
王の子

レギン こうけいしゃ
ツオル国の王の後継者の意

ぎのう みと かじし
技能を認められた若い鍛冶士は
とうだい レギン かなづち
当代の王より『金の槌』を
も ききんぞく たまわ
摸した貴金属を賜り
ラグナル しかく え
『王の子』という資格を得る

ラグナル
王の子とは
レギン けつえん
必ずしも王の血縁である必要はなかった



LOVEBITES

『恋する秘文の戦士たち』

漫画：おやぬ
発行：一迅社

この作品はフィクションです。
実在の人物・団体・事件などには関係ありません。
本作品の一部あるいは全部を無断で複製・転載・上映・配信することは、
著作権上の例外を除いて禁じられています。

©おやぬ／一迅社